

平成 29 年度 第 2 回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 30 年 1 月 18 日（木）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで
会 場	葛塚コミュニティセンター 1 階研修室 AB
出席者	<p>北区自治協議会委員（福祉教育部会） 10 名 教育委員：齋藤教育委員、山倉教育委員 事務局：教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐、豊栄地区公民館長、 北区教育支援センター所長 他 4 名（欠席：豊栄図書館長）</p> <p>小中学校：濁川小学校長、早通中学校長 北区役所：地域課長補佐 傍聴者：0 名</p>
議 事	<p>1 開会 2 教育委員挨拶（齋藤教育委員、山倉教育委員） 3 事務局紹介（小中学校長、教育委員会事務局） 4 平成 29 年度 全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について（学校支援課） 5 意見交換（司会 北区教育支援センター所長） テーマ：いじめをなくすためにできること</p>
司 会	<p>いじめのない地域をつくるために、学校や地域・家庭で連携して何ができるのか。本日は、北区自治協議会で教育分野を担当する福祉教育部会の皆様のご協議の中から、いただきました、「北区教育ミーティングについて」という懇談要旨に基づきまして進行させていただきます。</p> <p>はじめに、北区の小中学生における「いじめ」発生の現状と取り組みについて学校支援課長補佐からご説明いたします。</p>
学校支援 課長補佐	<p>新潟市ではここ近年、いじめの認知件数が急増しています。これはいじめが増えたのではなく、今まではいじめでとらえなかった小さなものに関してもすべていじめととらえるようになったからです。それだけ先生方の目がいじめには、今はアンテナというよりも、もうセンサーとなっていじめを見つけなければいけないというのが学校現場です。ですから、小さなささいないじめも認知できていることになっています。</p> <p>資料 2 の棒グラフ、特に小学校ではいじめの認知件数が平成 27 年度と昨年度平成 28 年度では 6 倍強に増えました。それだけ、学校側がいじめを見逃さずに取り組んでいると言えます。平成 28 年度では、7,229 件のいじめ認知件数があったのですが、北区はその内の 421 件です。単純に 8 区で割りますと、少ないほうだと思います。中学校は、新潟市 1,255 件のうち北区は 75 件です。こちらのほうも認知件数は少ないほうと考えています。認知件数が少ないということが、いじめの数が少ないということとは全く別物と考えてください。また、多ければいじめが増えているというということではなく、多いところは、小さいいじめを見逃さずに見つけて認知して、それに対応したというほめられるべき数字だと考えてください。</p> <p>そこをよろしく願いいたします。</p>

いじめには、下に書いてありますように色々あります。「冷やかしや悪口」、「仲間はずれ」、「軽くぶつかる」、「ひどくぶつかる」、「金品をたかられる」、「金品を隠される」、「嫌なこと・恥ずかしいこと」、「パソコン等による誹謗」等です。新潟市も全国データと同様に「冷やかしや悪口」、「軽くぶつかる」、「仲間はずれ」の割合が多い結果となっています。

冷やかしや悪口というのは、あだ名で呼ぶなども含まれます。ただ呼ばれたほうが嫌だなと思えばいじめですから、そういったことは沢山あります。軽くぶつかる、ぶつかるというのは、ぽんと叩いて、叩かれたほうが痛いと感じていじめだと思えばいじめとなります。そうでなければ、こんな数になるわけではないので、全てが受けたほうの気持ちからでた数です。

脳科学上、人間は、自分と違うものを排除したがることがあって、少し目立つとか、正義ぶっている、もしくはわがまま、そういった子に対して、無視したり先ほどのいじめ行動が起こることが多くあります。

いじめの内容に、インターネットの書き込みとありますが、これは少ないです。小学生前提ですと、いじめが、七千件ある内、30件ちょっとです。パソコンやLINEなどを使って、相手にいやなことを言うといったことは少ないのです。中学生は、さすがにもう少し多いですが、60件弱でしかありません。パソコンやネットいじめがかなり騒がれていますが、現実にはそれほど多いわけではありません。ただ、ネットいじめというのは学校現場からは見えにくいものなので、被害に遭った子が言ってくれなければ発見できません。発見しにくいという点ではかなり難しい事例になっています。

特に、北区がこういうものが多くて、こういうものが少ないといった、一般的な傾向があるわけではありません。新潟市全体でも、だいたい同じような傾向かと考えています。

皆様方はいじめの定義というものをよくご存じだと思いますが、一般の方々是非常に誤解しています。認知件数はますます増えていきます。平成28年度では、小中学生合わせて八千件くらいですが、平成29年度の結果が来年度に出ますと多分、倍の一万六千件にはなると思います。その時一般の方々には、新潟市はいじめが増えているという反応ではなくて、新潟市はいじめを見つけるために非常に頑張っているととらえていただきたいというのが私どもの気持ちですので、よろしくお願いいたします。

司 会

次に、いじめを生まない見逃さないための学校の取組みについて、お二人の校長先生よりお話をいただきたいと思えます。まずは濁川小学校の校長先生からお願いします。

濁川小学校長

新潟市の各学校では、いじめ防止の基本方針であるいじめ防止プログラムを実施し、ホームページでも紹介しています。当校の基本方針の中でもいじめがどういうものかということも挙げています。特に濁川中学校区では、いじめ防止連絡協議会を作るということで動き始めており、一小一中のよさを生かしながら、小中連携していじめ防止に取り組んでいるところです。

その中の一つに「絆の日」という日を小中学校で設けました。月1回ではありますが、子どもたちが保護者とじっくり話ができる時間をつくりたいということで、中学校では、部活動をその日はやらない。小学校も放課後の活動をやらないこととし、その日は児童生

徒を全て家庭に帰します。地域の方にも、その日は「絆の日」ということで、地域で遊んでいる子や友達の家にいる子には、自宅に帰ろうねと声かけをしてもらうという取組です。今年度初めからもう何回か実施してきましたが、自治会からも良い反応をいただき、ある自治会では、学校からのお知らせのほかに自治会だよりで、もう1回そのことを詳しく周知いただき、少しずつ効果をみているところです。

子どもたちは大人に自分の気持ちをきちんと受け止めてもらえるという実感がある中では、他の子に、少しいらついたとしても、悪いことをしようとは考えないで、こんな嫌なことがあったんだよと吐露できることで、一つ壁を越えられるのではないかと考えて取り組んでいるところです。今のところ、重大事案等は起きていませんが、もし重大事案が起きても、基本方針の中で組織的な対応について記載していますので、皆さんにお示しして行っているところです。

子ども同士のからかいとか、悪口というものを保護者にも聞いてもらって、子どもの気持ちはそれで収まり、子ども同士は仲良くなっているのに、聞いた保護者同士が、あの子はああいう子なんだってね、こう子なんだってねと言ってしまうことが問題を大きくしてしまいます。自分の子どもだけしか見えなくなってしまうと、小学校も少し問題を複雑に考えて対応してしまうところがありますので、子どもがもう終わっているなら、保護者もそこで終わっていただけると、複雑にはならないと感じています。

次に、早通中学校の校長先生お願いします。

当学校にも基本方針がありますので、それに則って動いています。

いじめの数値は、学期ごとに報告しています。今年度は7件ありました。件数に関しては少ないと感じています。ほとんどが、先生への通報やアンケートで把握し、速やかに指導するという形になっていますので、今ほどお話があったように、嫌なことがあると先生に話ができるというシステムが必要なのではなく、先生が聞いてくれるなと思えば子どもたちはそのことを話すし、そしてそれが解決したという流れになれば、子どもたちは次からこういうことがあるのですということをお話してくれると思っています。

やはり大事なのはそういう雰囲気づくりなのだと思います。

また特に感じるのは、中学生はいろいろなストレスがあるわけですが、勉強でも成績が上がらないというのは、我々が考えている以上に強くストレスを感じるようです。おまけに、親から勉強しなさい、ゲームばかりしているのではないかとと言われると、なおさらストレスを強く感じて、それが少し気の弱い子どもにいじめという形で向くということはあるがちな気がします。子どもたちにそういうストレスを感じさせない、例えばそういうストレスがあってもどこかで発散できる、そしてそういう気持ちを認めてくれるような学校環境であればいじめが重篤化することはないのではないかと考えていますし、それを今学校がやらなければいけないことなのだと思います。

インターネットという話がありましたけれど、インターネットは、いじめという報告まではいかないのですが、トラブルがありました。

それは、ある部活でのことです。部員が10人弱のところ、11月頃に新たに入部した生徒がいました。ある程度集団ができている中にぼんと一人入ってくると、当然のことなが

司 会
早通中学校長

	<p>ら、え、なんで今ごろ来るのというような思いが部員の中にあるわけです。それを子どもたちがというよりも保護者がLINEを使った連絡網に、何を考えているのだろうね、というようなことを書いたら、そうだよねという意見が広まり、それを新に入部した子の保護者が見つめて、学校に伝えてきたということがありました。これは、便利な道具が結果的に人を傷つける行為になってしまうということを考えずにやってしまったというケースです。この点につきましては、しっかりとした啓発をしていかなければいけないと思うと同時に、やはり保護者のインターネットの使い方でも子どもたちと同じように不安なところがあるわけです。うわさ話とかそういうものを平気で書く。それが結局子どもたちの文化にもなっているというところが非常に心配するところでありまして、先ほど学校支援課長補佐から話がありましたが、インターネットのことについては、学校では特に分かりにくいものです。しかし、国の法律の中ではそれも学校が見なさいということになっていますが、少し難しいと常々考えているところです。ですから、表面的に出てきているところで子どもの変化を見逃さず、少し元気がなかったら、どうしたの、というように気軽に声を掛けられるような、そういう学校であればいいと思ってやっているところです。どこまでうまくいっているのか、なかなか評価が分かれるところだとは思いますが、我々の姿勢としてはそういう形でいきたいと思えます。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>梅津副部会長</p>	<p>本日のテーマに関して、福祉教育部会委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。この度、せっかく校長先生からおいでいただいたので、学校として地域の皆さんに何をしてもらいたいのかを教えていただきたいと思えます。</p>
<p>濁川小学校長</p>	<p>小学生は、地域に出たときにたくさん自分に声を掛けてもらえるというところは嬉しいと思っています。また、地域の方が自分たちを見守ってくれている、包まれていると感じることが自己有用感につながってくると思えます。小学生はまだまだあいさつが悪い、とのセーフティスタッフの方からのご意見がありますが、それでも根気強く、おかえりなどの声を掛けていただくと、子どもたちも嬉しくなるのではないかと考えています。守られている感じはすごく子どもをいい気持ちにさせますので、その辺りをお願いできたらと思えます。</p>
<p>早通中学校長</p>	<p>中学生に対しては何かと地域の皆さんから誤解されています。例えば中学生が公園の片隅でたむろしていると、もう何か悪いことをしているのではというイメージで見られがちです。しかし最近、地域教育コーディネーターのご尽力により、中学生が地域に出て行く場面を色々作っていただくと、中学生も頑張っているね、というような思いを地域の方に持っていただけるようになり、地域の方の見る目が少し変わってきているのかなと思えます。当校の生徒は地域に迷惑をかける存在であったのが、最近はそうでもないな、頑張っているね、ということで温かく見守ってもらっています。そして、地域からの苦情電話がほとんどなくなったというところが、やはり変化なのかなと考えています。</p> <p>ですから地域の方から気軽に、こんにちわ、とか、何か今日あった？などのお声掛けをお願いします。また、そういう中で、子どもの雰囲気は少しおかしかったら、どうしたの、と声を掛けたり、あなたのことを見ているよというサインを出してもらえると、ああ、何</p>

<p>渡邊部会長</p>	<p>か皆に見てもらっているのだな、繋がっているのだなという意識が強くなるのではないかと思います。そういう形で、中学生も含めて子どもたちを地域で育てていただければ、学校側としてもそこにさらに積み上げるものが出てきますので、大変ありがたいと思います。</p> <p>私はコミュニティ木崎村の代表としてこの自治協議会に出ていますが、やはり地域で子どもを育てることが大切だということで、今まで私自身もずっと子どもたちとのかわりを大切にしてきました。今、コミュニティ木崎村では、運営委員会とか役員会の中に各学校の先生から入っていただき、ほぼ毎月出席してくださるので、感謝しています。その時先生からは、必ず学校の様子を聞かせていただいたり、いつでも学校へ来て生徒の授業の様子を見ていただきたいとの話もいただきます。私どもは大変ありがたいと思い、できるだけ行くようにしております。</p> <p>それから、地域の方と子どもたちの顔が見えるようなものが何かないかなと思い、地域のお祭りを開催するときには、小学生、中学生、高校生の皆が参加するお祭りにしなければだめだということで、今から30年も40年も前から取り組んでいます。子どもたちには樽をたたいていただき、中学生には郷土芸能、神楽とか四ツ切舞とかを習っていただく、それを毎年の夏休みに継続して地域の皆さんと一緒に指導しています。そうすると、自然と顔が見えてくるものですから、これはやはり大切なことだと常々感じております。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>私は、新潟医療福祉大学で教員をやっております。</p> <p>以前、私も中学校の教員をしていたことがありますので、先生方のことをつい考えてしまいます。先ほど、LINEによるいじめといったお話も出ていましたが、学校の先生方との研修の際、LINEなどでいじめが発覚した時にはもうすでに遅く、大人の目に触れるようになってしまったものは既に深刻化しています。中学生のいじめは、目に触れないようなものが主流なのです。ということをお聞きしてすごく驚きました。その中で、先ほどアンテナではなくセンサーでないといけないという話を聞きました。先生方は、たくさんお仕事がある中でどれだけストレスをためていらっしゃるのか、先生方のご苦労がいろんなところに出ていると感じています。</p> <p>先ほどのデータでも、先生は、テストで間違えたところをいつまでも教えてくださるということを子どもたちもちゃんと見ていて、本当に先生方は頑張っています。子どもの味方という成果がこういうところに出てくるのはすばらしいことだと思います。その反面、やはり先生方のストレスといいますか、先生方の本当の生の悩みというものほどのようなものがあって、地域はそのために何ができるのかということなかなかリアルに感じることはできません。そのことについて少しお聞かせいただければと思います。</p>
<p>濁川小学校長</p>	<p>今、学校職場の多忙化解消ということでいろいろ言われています。まずセンサーで感じとった子どもは、以前ですと担任に任せられる部分が大きかったのですが、今は学校というチームでやろうということで、先ほどの様々ないじめ対応について新潟市が今年出した取組が、校内いじめ対応ミーティングメモ用紙というカードなのです。書き込めるカードが教頭先生の机の近くに置いてあって、何か担任が感じたことがあればすぐにメモで書いて、それを管理職のところに置いていくのです。そうすると、それを他の先生や管理職が見て、対応について指示を出します。いじめの割合には低中高があって、これは低だから</p>

<p>早通中学校長</p>	<p>すぐ私たちが話せば終わりますねとか、中くらいであれば少し問題が出てくるので親に連絡しましょうとか、最悪の場合はすぐ運営委員会を開きましょうということにしています。先生方は、カードを利用することで責任が少し離れると感じています。今、チームというところで頑張っているところです。</p> <p>あとは、先ほどの「絆の日」は、子どもたちが家にちゃんと帰ってくれることで、教員もその日は余計な仕事は止めて、自分の家庭も大事にしましょうということを決めている日ですから、そういうところで、少しずつ皆で頑張っています。</p> <p>第一は、子どもたちの幸せが一番だと思っています。</p> <p>教員のことを心配していただいて大変ありがとうございます。</p> <p>教員には色々なことを要求されますので、それを全部聞いていたら多分パンクしてしまうだろうなということで、取捨選択をしていかなければいけないと思っています。先ほど当学校はということでお話ししましたが、やはり一番は、自己肯定感が低い子どもたちが多いのではないかとこのことをすごく感じています。どうせ自分なんか何をやってもだめだと思っている子に、自信をつけさせることが必要だと思います。学習、勉強ということでは自信を付けさせることも手なのですが、勉強がまたストレスになってそれが変なところに跳ね返ったりすることもありますから、体を動かすことで自信をつけられる取り組みを検討した結果、当学校では総おどりを行うことにしました。そこにエネルギーを注ぐが他のことはやらないということではなく、総おどりを中心にやるが他の事は少しひかえるというような形でやっていることが、今、うまくいっている部分なのだと思います。</p> <p>子どもたちが学校にいる時間帯は当然管理下にありますので、私たちは全ての事を見なければいけません。しかし、家庭に帰ってからのことに私たちがどこまで責任を持てるのかということ、学校が今までそういうところまでやっていた部分を今後はどこかで肩代わりしていかなければいけないと思います。そうしないと、多分、学校現場の多忙は、解消できないと思いますので、その辺のところはまたいろいろな場面でお話をさせていただいて、学校の率直な意見と、受け皿としてどのようなものがあるのかということをお話し合っ組み立てていかなければいけないところではないかと思っています。</p>
<p>真壁委員</p>	<p>私は、新潟医療福祉大学の学生です。</p> <p>小学校5、6年生の時に2年間にじめを受けました。先ほど保護者や地域の人に助けをもらおうという話がありましたが、親には心配をかけたくない、地域の人などに言ってしまうとすぐに広まってしまうと思いました。結局、頼れるのは学校の先生だけなのですが、先生にも相談できなくて、2年間ずるずるといじめられていました。6年生の冬くらいに、先生が察したのかどうか分かりませんが、生徒一人ずつ面談を始めたのです。それがきっかけでいじめが表に出て解決できました。私の場合はクラスの女子6人全員から無視されました。それから、特に男女に分かれてチーム分けとかになると、チームにはなっているけれど無視されるというような状況がずっとあって、なんとなくそれが先生の目に見えてきたのかなと思っています。</p> <p>いじめられている子に自己主張ができる子がそんなにはいないと思います。先ほど先生の負担の話をお聞きしましたが、生徒は本当に見てほしいと思っているのです。</p>

五十嵐委員	<p>そんな彼女だったのが、今ではきちんとした意見を言い、地域でのボランティア活動に一生懸命取り組んでいます。そう変わったきっかけというのはありますか。</p>
真壁委員	<p>まず、地元の中学校に進みたくないと思って、わざわざ中学受験をして別の市の中学校に行きました。地元を離れたことにより何かすっきりしてしまって、そこから自分の意見を持っていけるようになりました。別の環境にガラッと変えてしまうことが私にとってはすごくよかったですので、変わったのかなと思います。</p>
早通中学校長	<p>今の件について少しよろしいでしょうか。</p> <p>たしかに忙しいのだけれども、やはり学校側がやらなければいけないことは、子どもに対しての責任、学校活動中で様子がおかしければ、まずそこにアプローチすることができなければだめだということです。今、いじめが全国的に大きな事件になって、生徒が亡くなったりしています。私たちは、なぜそうなるのかを考えてみますと、学校側が生徒の気持ちに1歩踏み込めない関係性だったからなのではないかと思っています。それは多分、真壁委員が話されたように環境というか、すごく小規模のグループだったり、逆に大勢いすぎて分らないとか色々なところがあると思います。その場、その場、場面、場面で合うような働き掛けをこちら側ができなければだめなのだろうと、今、感じました。</p>
若月委員	<p>私は、早通南小学校の地域教育コーディネーターをしています。</p> <p>コーディネーターは7年くらいになるのですが、今、学校がすごく落ち着いてきたと思っています。先生方のきめ細やかさはすごいなということを感じていますし、ボランティアの人もそれを肌で感じて、分かっている方が多く学校に来てくれています。</p> <p>ボランティアの方から、自分たちは学校に本当に役に立っているのかということを知りたいとよく言われます。先生方は、いろいろお礼を言ってくれたり給食に呼んでくれたりして、今本当にいい関係ができています。地域の方も、ああ自分たちは学校の役に立っているなということを実感しており、生きがいになっている方もいます。最近私は、子どものためというよりは地域の人のために、この人が学校に行ったら絶対いいぞという形で少し高齢者の方を誘ったりしています。本当に今、地域の方から声を掛けてほしい、見てもらっている実感がほしい、ということが学校側の求めることであれば、それをそのまま地域の方に言ってあげたいと思っています。地域の方は何かもっと大きなことをしたほうがいいのではないかと考えているので、小さなことでもいいんだよ、ということを書いてあげたいと思います。</p> <p>携帯のことなのですが、今中学生は携帯電話をたくさん持っています。私の子ども時代とは多分全然違うと思いますが、小学校のボランティアで知り合ったお母さんたちは、やはり、子どものLINEを見たらこうだった、ああだったという話がすごく多くて、それを先生に相談してもいいものかどうか迷っています。私が先生に伝えることもできますが、言ったことが子どもにばれると困る、という話がいくつかあったりするので、地域の方も多分そういうことを聞いている方がいると思います。民生委員の方も聞いているかもしれません。</p> <p>ちょっとしたことが分かったときに、地域の人ほどのように、学校に連絡したらいいのか、またはしないほうがいいのかを悩むのですが、いかがなものでしょうか。</p>

早通中学校長	<p>確かに、おおごとになるという心配をされると思いますが、いろいろな意向を無視しておおごとにするとはまずありません。情報として教えていただくとありがたい。通報者の氏名を公表することは絶対にないよう対応していきます。</p>
若月委員	<p>子どもに知られることは、無いでしょうか。</p>
早通中学校長	<p>ありません。ですから、最初にご相談していただくことがいいと思います。</p>
若月委員	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
濁川小学校長	<p>小学校も、本当にまず情報があることがありがたいですので、お願いいたします。</p>
岡委員	<p>私は、松浜中学校の地域教育コーディネーターをしています。</p>
	<p>私も時間があるときはたまに職員会議等に参加して、学校のいろいろな情報を伺っています。このいじめの定義も、初めて聞いたときはびっくりしました。中学校までは保護されている子どもたちが、高校で保護がなくなったときのことを少し危惧しました。これだけ件数が出るのは別にいいとして、この中で深刻ないじめにつながるということは減っているということでしょうか。</p>
学校支援 課長補佐	<p>大きな、暴力的なものなどに関してはこの二、三年で激減しました。殴られるということはありません。</p>
岡委員	<p>要するに、いじめ件数が増えているということは、一般の人からみると、とんでもないことと思ってしまうのですが、認知件数なのですね。分かりました。</p>
	<p>先ほど濁川小学校の校長先生が、個人ではなくてチームで対応とおっしゃっていましたが、それはすごく大事なことだと思っています。私は松浜中学校に勤務して丸8年になりますが、最初のころはまだ少しやんちゃな子が多くて、職員会議の中や会議の後の情報交換で問題事項がすごくたくさん出ていました。こんなに些細なことでも情報を共有して、名前のあがった生徒に対しては全先生が気をつけ、言葉も掛けたでしようし様子も見ていた、ということがあったのです。ところが、最近少し松浜中学校もおとなしくなって、すごくいい学校だね、最近怖くなくなったよねと地域の方から言われてすごく嬉しいです。しかし、私がこの8年間見てきて思うことは、先生方の危機感が足りなくなったということです。少し安心してしまって、自分のところで押さえてしまったりとか、大事な情報なのにあまり出さなかったりしているように思います。情報はもっとオープンにしてもいいし、本当に先生方がみんなでも共有できたほうが、先生自身にとっても生徒さんにとってもいいのにと少し歯がゆく思っています。しかし、深刻ないじめが減っているということであれば、それはよかったと思います。</p>
曾我委員	<p>私は豊栄南小学校で地域教育コーディネーターをしています。</p>
	<p>今皆様のお話を聞いていまして、絆の日はとてもよい取り組みだと思いました。子どもたちだけではなく、学校の先生たちも同じように家庭がありますので、そういう日がいろいろな学校に広がればいいなと思いました。ただ、絆の日という日があっても、我が家もそうですが実際はなかなか仕事の関係で早く帰れない家庭があると思うと、時間は短いけれど、意識するということが大事なのではないかと思いました。</p>
	<p>真壁委員が話されたように、やはり学校に言える場所が有り、言える人、言える時間が有って、言える雰囲気があるということが大事だと思います。そしてそれは学校だけでは</p>

	<p>なく、家庭や地域でもそういった関係、子どもとの関係をそういうふうにできれば、もっと、真壁委員のような辛い思いをする子が少なくなるのではないかと思います。</p> <p>学校が地域に求めていることも、先ほどのお話を聞いて、地域からの声掛けであったり、色々なことで見守ってもらっていると子どもたちが感じてくれ、安心感を与えてあげられるような活動を私としても一生懸命行っていきたいと思います。</p> <p>時々地域の方にはこういうことをしてもらったらどうか、というお話を管理職の先生たちしています。しかし、校長先生が交代しその考えによってはうまくいかないこともありますので、保守的にならないように教育委員会からご指導いただければと思っています。</p> <p>私は、自分の子どもがもうだいぶ大きくなり、今は、教育とは少し無関係な状況ですが、次男の子が小学2年生で、濁川小学校でお世話になっています。</p> <p>私なりに考えたのですが、いじめられやすい子はどこの学校にもいると思います。ですから、いじめられやすい子をなくすことも大事ではないかと思います。親御さんの育て方にもいじめられやすい子ができる要因があると思います。例えば、褒めてあげなくて否定ばかりしていますと、自分自身に自信が持てなくて自分を主張できない。いわゆる気の弱い子になってしまうと思います。先ほどちょっとした些細なことでも、その子にとっていじめられたと思うといじめに繋がるとの話が有りましたが、子ども時代だけではなくて、大きくなってちょっとしたいじめや、いじめではないけれどきつい言葉を言われたりすることが有ると思います。その時、しょげていたりすると大変ですよ。ですから、強い心を身に付けさせるということが大事ではないかと思います。私が中学生のころ、今から約25年前には、学校で柔道を教えていました。今でも教えているのでしょうか。</p>
<p>村中委員</p>	<p>体育で教えています。</p>
<p>早通中学校長 村中委員</p>	<p>そうですか。やはり強い精神的・肉体的な力を養う、鍛えるためには、スポーツや格闘技は良いと思います。特に空手とか柔道は、学校側ももっと力を入れてもらいたいと思っています。</p>
<p>濁川小学校長</p>	<p>親のしつけや育て方に問題があるとまでは言いませんが、その点を学校側として保護者の方にどのように説明をされているのでしょうか。</p> <p>子どもたちは本当に千差万別でそれぞれの個性を持っていて、それを弱い、強いということで区別することはできません。すぐく自分の強さを出せる時が有ったり、同じ子でもすぐく落ち込むことも有りますので、私たちは、道徳教育というところで、どういう国籍であっても、だれもがその個性を皆で認めていけるような世の中を作っていける教育を行っていますので、育てた親を否定するのではなく、皆で認め合っていく、という生き方を教えていきたいと思っています。</p> <p>実際、私が仕事をしている中で見ていると、親よりもその上の祖父母世代の方がすごく興味を持ってくれます。もっとこうしたいという思いも願いもたくさんあって、学校に協力してくださいます。しかし親世代は、本当に必死とか一生懸命で、ご自分の仕事もあるし、なかなか子どもにかかりきりになれないのが現実だと思います。ですから、そこは地域の方たちがフォローしてあげられるようなそういう地域であれば、子どもたちも安心していられるのではないかと感じているところです。</p>

村中委員	北地区は、特に地域で行う行事が多いです。そういうところに学校を通じ、または学校と連携して、多くの子どもたちが参加できるようにやっていきたいと思っています。ありがとうございました。
高橋委員	先ほど、学校側から、地域の人に声掛けをしてほしいという話が有りましたが、子どもたちに向かって私などが下手に声を掛けると、何だこのじいさん、というような顔で見上げられてしまいます。学校でも、変なおじさんに声を掛けられたら返事をするな、と指導していると思います。そこで提案ですが、親同士が仲間になるというのはどうでしょう。そうすると親は、仲間の子どもには遠慮なしに話すことができます。子どもも、お母さんの仲間だという意識があれば遠慮なく話ができるようになるという関係ができてくると思います。私は、そういう仲間の子どもたちと会話がだんだんできるようになり、君は〇〇さんの子だね、と声掛けをしています。やはり親同士が仲間になることが広がってくると、私たち年寄りもそういう仲間に入っていけるかなという感じがします。PTAの役員とか、学校のボランティアなどで一緒になる機会があると思いますので、そういう機会を通して親同士が仲間になってほしいと思っています。
齋藤教育委員	昨日、教育委員8人と新潟市のPTA連合会の人たちと、短い時間でしたけれども会合を持ちました。テーマは学校の先生の多忙ということでしたが、その中で、PTAで地域教育コーディネーターの方が、学校の先生は忙しいので、些細な問題を教頭先生に伝えて、手をわずらわせるのは大変だろうと思い、伝えなかったそうです。もし、それが全部教頭先生など学校側に伝わると、電話対応などで大変になってしまいます。ということでした。更にその方からの提案で、PTAの皆さんがカウンセラーをPTA会議の中から選出して、そのカウンセラーの人にトラブルなどをまず相談して、そのカウンセラーの人がこれは、専門性が高いので早めに学校に報告した方が良いとか、それは相手の親同士、家庭同士で話し合ったほうが良いなどを判断していただくのはどうでしょうか。という話をお聞きしましたので紹介いたしました。
梅津副部長	<p>子どもたちは、人間関係の結び方を学んでいる最中ですから、時として相手を傷つける場合も有るし、そういう言動が出てくることも有ります。それはもう避けがたいという気がします。ですから、いじめゼロということには絶対にならないのだろうなと思っていますので、私としましては、深刻ないじめで自分の命を落としてしまうというような子どもが出てこないことを強く願っています。そのためには、先ほど真壁委員が辛い体験を話してくださいましたが、いじめられている子どもは、親には言えない、親に迷惑をかけるのではないか、自分のプライドもあるし親に話したら親が嘆くだろうな、心配するだろうなと思うし、だれかに話したいと思ってもなかなか話ができないのだと思います。けれど、やはり小さいときから、とにかく辛い時には、僕辛いよ、と言える親子関係を築くことが大切だと思います。親は、他人様に迷惑をかけてはいけませんが親には迷惑を掛けていいんだよ、親には何でも話さないというような、そういう人間関係を小さいうちから作っていくことがこれからやっていかななくてはいけないことなのではないかと思っています。</p> <p>辛い時に辛いと言える親子関係もそうですし、辛い時に辛いと言える地域の人がいってくれる。あるいは、全部話せなくても、こんなことがあったと言って話ができる人が地域に</p>

いてくれる。そういうことが大事なのではないかと思ます。

今はテレビやゲームとかで、親子がコミュニケーションをしていないことが如実に分ります。ですから、絆の日を設けたように、日頃からそういう時間を減らして、親子でコミュニケーションをしていこう、自分たちの家庭は本当にコミュニケーションを行っていったという意識を、親たちに自覚してもらうことが大事なのではないかと思ます。

親も、社会も、勉強ができる子とか、何でもしっかりできる子を求めているから、そうでない子はだめな子だというような大人の価値観を押し付けているので、校長先生が言われたように、自己肯定感が低い子がたくさん出てきているのではないのでしょうか。本当に自己肯定感を高めていくためには、小さい頃から親がしっかりと子どもの話を聞いてあげ、結果重視ではなく、やってきたことについて、正しく見取って褒めてあげることが大事なのではないかと思っています。

そんなことを思いながら、私たち地域の人たちが何をすればいいのかを考え、そして皆で共通理解をしていけるといいなと思ます。

工藤委員

私は、北区の社会福祉協議会で支え合いのしくみづくり推進員という業務を担当しています。

先ほど学校が集計したアンケート結果を見させていただいて、40番の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問に対して、北区の子どもたちが回答した率が78.4パーセントと非常に高いことに、驚きと嬉しさを感じていました。

今、私は、地域のコミュニティを単位として、ちょっとした困りごとを地域の中で助け合い、互助の中で解決していこうという仕組み作りについて、他の推進員と一緒に活動を進めています。

地域では、できることからやりましょうということで、日頃の隣近所とのあいさつや、子どもたちの登下校中の見守り、声掛けなどをしましょうという話が出ています。あとは地域行事の検討です。地域行事は、今の時期ですと特に歳の神などを各自治会等の行事として行っています。そういった行事を地域で行うことで、普段は行事に参加しない若い世代、例えば、小中学生のお父さん、お母さん世代も、子どもたちが参加することで一緒に参加していただけたらと思います。そこで、普段は顔を合わせない地域の方々が顔の分かる関係になり、地域の中での多世代間交流が活発になるような行事をやりましょうということで進めています。そういう行事が、普段から行われることによって、あの子どもはあの家の子だなと思えるようになります。なかなか今、核家族化で多世代家族が減ってきている中では地域の関係性も希薄化していますので、地域の方が、普段から顔の見える関係づくりを進めていけたらいいなと思ます。

学校、地域から聞こえてくるのが、特に若い世代の方々がなかなか地域行事に参加しないという困りごとです。私どもも、様々な機会を捉えて、そういう若いお父さん、お母さん世代にも、これからは支え合い、助け合いが大事になってくるということを伝えたいと思っていますので、ぜひ学校の先生方、教育委員会関係者の皆様にも、様々な機会を通じて支え合い、助け合いが大事だということを伝えていただきたいと思います。ありがとうございました。

司 会	<p>それではここで、校長先生および教育委員の皆様よりご感想などをお聞きかせただけ たらと思います。まずは各校長先生からお願いいたします。</p>
早通中学校長	<p>貴重な経験をさせていただきました。地元の方々とお話する機会はあるのですが、広く 北区ということで色々な話をお聞きし、参考にしていきたいと思いました。子どもはやが て大人になるわけなので、きちんとした考え方をもち、あるいは人とちゃんとコミュニケ ーションを取ってくれるような、そんな人間になってほしいという願いはあるわけです。 それは学校だけでできることではないということを改めて感じましたので、また地域の皆 様と手をたずさえていろいろやっていきたいと思っております。</p>
濁川小学校長	<p>今日はありがとうございました。</p> <p>いろいろな立場の方が、子どもたちの幸せを考えてこんなにいろいろ考えてくださると いうことが本当に身に染みて分って、また学校現場に帰ったときに、みんなのいるこの北 区はすごくすてきなところだよということを伝えながら、子どもたちが幸せになるよう に一生懸命頑張りたいと思います。本当に今日はいい時間をありがとうございました。</p>
司 会 齋藤教育委員	<p>続いて、教育委員の皆様からお願いしたいと思います。齋藤委員、いかがでしょうか。</p> <p>以前、文部科学省の人からいじめをテーマとした話を聞いたことがありました。その話 の中で、中学生までに、ほとんどの人が、いじめた経験があり、ほとんどの人が、いじめ られた経験があると答えているという調査結果を聞いて驚きました。</p> <p>更に文部科学省の方は、いじめはなくなる。ただ、大事件になってしまうから社会 が根絶しようとするが根絶はできない。いじめは風邪と一緒に。子どもにいくら風邪を ひくなどと言ってもひく子はいます。そこで、風邪をひいたときには薬を飲みます。医者に 行きます。自分の力で治す人もいます。それが、肺炎になると社会的に問題になります。 では肺炎にならない抵抗力や薬が必要となります。ですから、一番大事なのは子どもたち の心を育てることだ、と話していました。私も同意見です。</p> <p>これは学校現場、家庭、地域でも同じことだと思います。こうすればいいという答えが すぐには出ないと思います。ただ、そういう意識を周りが持ち続けるということが、少し でも、いじめによって大きな問題にならない、強いて言えば予防になるのではないかと 思っています。</p>
山倉教育委員	<p>新潟市の成人式に参加させていただいた時に、私たちの後ろにいた実行委員の女の子 たちは黒いスーツで座っていました。私は、その姿を見てあすばらしいなと思いました。 司会の子は着物を着ていましたし、着物を着て参加している女の子がほとんどでしたが、 実行委員の女の子たちは、地味な恰好をして黒子に徹していたのです。人のために頑張 ろうという思いがある子は、いじめなどはしないのではないかと思います。自分の事だけ ではなく、人は関係ないと思うことでもなく、皆のために何かしよう、という思いがある 子が育ってくれるといいなど、その時に思いました。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。いただきましたご意見につきましては、北区はもちろんのこ と、市全体の今後の教育行政に役立ててまいりたいと思います。</p>
議 事	<p>6 閉会挨拶（北区自治協議会福祉教育部会長）</p> <p>7 閉会</p>

